

2025年第13回全国グライダークラブミーティング 議事録(1日目)

日時：2025年10月28日(土) 13:00-17:00

場所：クリアビューゴーGC&ホテル 〒278-0012 野田市瀬戸 548

幹事クラブ：NPO 法人関宿滑空場

参加団体・氏名

※敬称略

NPO 法人関宿滑空場：篠原、伊藤、山内、赤堀、江副(KSC)

Gliding Japan 編集部：堤

(公社) 滝川スカイスポーツ振興協会(SATA)：日口

(公社) 宮城県航空協会：齋藤

(公社) 長野グライダー協会：畔上

諏訪市グライダー協会：津久井

(公財) 日本学生航空連盟：栗山

(公社) 日本グライダークラブ(JSC)：吉岡

中部航空連盟：佐々木

ヤマハソアリングクラブ：迫田

大野グライダークラブ：三田村

NPO 九州グライダースポーツ連盟：牧田

(公社) 日本滑空協会(JSA)：佐志田

13団体 17名

開会のあいさつ

日口委員長よりご挨拶

直近で事故が立て続けに起きており残念である。ここではあえて扱わず、若年層の取り込みを大きなテーマとして開催したい。

来賓のご挨拶

野田市教育委員会 教育長：染谷篤様

野田市市長：鈴木有様

ご両名のご挨拶より下記抜粋

・空を飛ぶという人間の永遠の夢をグライダーという形で、しかも野田市で活発に活動していることに深く感銘している。

・野田市は河川環境を活用し、スカイスポーツ・カヌー・サイクリングに力を入れている。

・野田アウトドアスポーツフェスタにて熱気球搭乗のご経験はあるが、グライダーの体験搭乗は未経験。ぜひお誘いいただきたい。

各団体の近況報告

○NPO 関宿滑空場

・10月12日(日)に発生した DG400 の大破について

→エンジンが格納できずショートランディングした、パイロットは無傷

→接地前にかなりピッチアップの操作をしたことでコックピットが無事だった?

→機長は DG400 に慣熟しきっていなかった可能性あり

→事故を受けて関宿の各クラブに不安全項目、リスクの見直しを依頼

→警察より「なぜ直接連絡しなかった?」との問い合わせがあった

[東京 FAIB]→[警察庁]→[該当県警]というルートで連絡済み

・ヒヤリハット

- グライダー曳航中の曳航機の前を他のピュアグライダーが横切った
 - ロバンを格納庫に移動中に翼端を擦った
 - ・曳航料の値上げ
 - 航空ガソリンの値上がり(約 419 円/L)のため 2,000ft 離脱を 600 円値上げ(5,600 円→6,200 円)
→1,500ft 離脱を廃止(曳航コース、離脱ポイントの設定が難しい)
-

○Gliding Japan 編集

- ・堤さん
 - 今年からの新メンバー
 - ・今回の全国グライダークラブ委員会は 2 回目の取材とのこと(初取材が浜北)
 - ・学連カレンダーのご紹介(堤さんにメール or 関東学連の OBOG 会で販売中)
-

○SATA((公社)滝川スカイスポーツ振興協会)

- ・もうすぐシーズン終わり
 - 時間・回数ともに昨年比 5% 減見込み
 - ・サマートレーニング
 - 日程公開後(2月)にすぐ満席になる程の人気
 - 曳航機のトラブルにより単機 1 機での運航(格納庫シャッタートラブルでキャノピーとプロペラ破損)
 - 月～金曜日に実施(週末はクラブフライトとしている)
 - 参加者は社会人、学生両方とも多い(1回のコースで定員 15-18 人。社会人が 10 数名、学生は 6 名程度)
 - 1 週間単位で休みが取れる社会人が増えた?
 - ・気候
 - 35°C 越えの日も多かった。特に、春のビッグデーが少なかった
 - ソアリングできる日はあるが、遠くへ行ける日が少ない
 - 岡崎も秋の方が条件が良かった(中航連より)
 - ・メンバーについて
 - 会員の 3/4 は道外の方で、滝川の方は 1 人だけ
 - インストラクター/タグパイは外部からの助っ人もお願いしている(数名)
 - ユース会員の伸びが大きい(全会員 267 人中 98 人、前年比 26 人増)
-

○(公社)宮城県航空協会

- ・Duo Discus T 運航開始
 - クラブ員が購入。クラブの新フリートとして使用させて頂けたことになった。XC トレーニングなどで活躍している。今後はフック付き動力滑空機の限定解除にも積極的に活用していきたい。
 - ・人手不足について
 - 会員数は増えているが、遠隔地の会員が多く、毎週参加できる会員は少ない。近隣在住の会員も増えているのでこれからに期待している。
 - ・ウインチ
 - 東北大航空部が日野と共同で製作、台車は協会で購入。ダイニーマ対応可能なように改造済み。MT なのでオペレーターの育成に時間がかかっている。
-

○(公社)長野グライダー協会

- ・飛行状況は前年比減(グライダー事故による影響)
- ・事故の影響→滑走路エンドのトレーラーを移動し、使える滑走路長を延長
- ・バラスト専用の袋を作成(シートベルトで固定)
- ・長野市が占有しているため、使用料は無料

○諏訪市グライダー協会

- ・ASW20C 導入
- クラブの新フリートととして加入(レースナンバー : JJ)
- XC トレーニングなどで活躍
- 近年プラスチック機の導入が多く、ヴィンテージ機からの脱却が進んでいると感じている
- ・ファルケのエンジン
- 10月 27 日に耐空検査合格
- 自力発航は近隣の牧場に配慮して実施していない(家畜が驚いてしまうため)
- ・単座機に乗る若い会員が増えてきたため、対空警戒を徹底している
- ・若い会員&若い指導員をどう増やすか
- 地元の方は在籍されているが高齢の方が多い
- 遠方からの指導員の招聘は特に検討していない

○J SC((公社)日本グライダークラブ)

- ・WBGT 採用
- 館林の値で 6 時間厳しい状況が続く場合は中止

○(公財)日本学生航空連盟

- ・R/W 土手側への落下物を無くしたい(2023 年から増加傾向)
- ・慶應大学の学生が 30km 章獲得 !
- ・8 月 30 日の事故について
- 現場に居合わせた人間のほとんどが落下した単索の方に気が向いていたので背面に移行する決定的な瞬間を見たものがいなかった
- ・東海大学の考案した索のエンドセットが具合良さそう、東海大学では全面切り替え済み
- 長野の「小川式」と同じ機能(ヒューズが切れても単索を曳航索に繋ぎ止める機能がある)
- 学連機関誌「方向舵」にて紹介
- 日本大学も同じものを導入する方向で準備中

○中部日本航空連盟

- ・秋のフライトは比較的条件が良かった
- 秋雨前線の影響も少なかったとのこと
- ・法人化について
- 後援企業であった中日新聞社が支援打ち切り
- 従来は補助金を 800 万円/年支援いただいていたため、燃料費、滑走路の維持費等の負担のみで運営できていた
- 現状の貯金のみでは 2、3 年で破綻してしまう懸念があるため、法人の立ち上げを模索中
- ・Discus のリペイントが岡山の業者で 480 万円掛かった
- ・クラブ機を 7 機保有中
- 単座機の維持が大変
- 単座機は会員にリースしてみては?
- Duo Discus を練習機として運用

○ヤマハ SC

- ・河川浸食対策工事が進行中
- 完了までに至らず 2 期工事を予定
- ・学連 OB が入部

- ・動力滑空機の限定変更合格
 - 操縦教育証明保有者だったものの大変苦労した
 - ・滑空場の利用活動
 - ほとんどがドローンテスト(特に電波テスト)
 - 使用料は取らず草刈りという形で協力してもらっている
 - ・鳥人間コンテストへの協力
 - リクルート活動にも有効
 - 「年配者の寄り合いになってはいけない」との思いで若い会員を積極的に募っている
 - ・会社からは主に固定費で補助が出ている
-

○大野グライダークラブ

- ・25周年を迎える
 - ・総会員数：200名程度
 - アクティブな会員は10名程度
 - 学生会員の枠は無い
 - ・フライト条件
 - 木曽川と比較してコンディションが良好、学生で5時間達成者もいる
 - ・ウインチ
 - 2連ウインチを3台、学連ウインチを1台保有
 - 木曽川と大野で2.5台使っているような状態
 - ・福井空港でAT体験を実施(年1回程度)
 - ・料金
 - フライト10分：3,000円
 - 年会費：12,000円
 - ・ZOOMについて
 - 事故後の対応を受けて正式契約
 - 滑空協会で50%割引で契約可能(JSAより)
-

○NPO九州グライダースポーツ連盟

- ・NPO九州の立ち位置
 - 学生の支援(主に6大学加盟)
 - 社会人クラブとしての運営もしている
 - ・新ウインチ
 - 右ドラムが滑って巻き取れない不具合が発生
 - 新しいシャフトをフライトアシスタントから輸入中(金額：755ポンド)
-

○JSA(日本滑空協会)

- ・電動モーターグライダー
- これから整備の技能証明を取る人は電動機の知識も必要か？など確認中
- 早ければ来年から導入可能な地盤を作る
- FESも同じ分類に入ってくる
- ・LSA
- グライダーの曳航をチャレンジしたい
- ・e-Air Sports
- 堤さんがアジア予選通過
- ・無線検査体制の構築(構想)
- 各滑空場に支部を作つて対応したい
- ・会員数(グラフ)

→若年層と高齢層で山ができている
→30~40代が谷となっている
・練習生の身体検査
→延長できないか?(身体検査医が減っている...)
→施行規則に記載があるので変えるのが難しい
・教証のワインチ化
→内々に進んでいるが妻沼の事故で停滞
→逆にワインチ曳航による経験不足という問題が出ないか?
→過去には AT15回で教育証明取った人がいる
・学連の加盟状況について
→団体会員として JSA に加盟
→学生は加盟している自覚が無い
・全国グライダークラブ委員会や安全委員会など、そういった活動の土俵に立って活動をしているグライダーマンが少ない

FLARMについて

・京浜ソアリンググラブの江副さんよりご紹介
・FLARMの国内での使用可否について
→現状は違法(ソフトバンクの周波数帯に被る)
→近年の無線機器はソフトウェア化が進んでいるので、チップの対応幅次第でソフトの書き換えで対応できる事例が多くなっている
→今回はソフトウェアの書き換えで対応可能
→製品の性格としては LORA に近い
・国内で使用するためのハードル
→下記の 2 つ
①技適を取ること
②技適を取るためのソフトウェアは Flarm 社が作らなければならないこと
・ソフトウェア開発のコスト
→製品単価に上乗せすることで合意の見込み
→代理店はアイランドシックスが独占で卸す契約を締結
→サポートは国内対応とする
・ADS-Bについて
→位置情報も付帯する
→Mode-S のトランスポンダーと連携可能
→フライトレコーダーも内蔵しているため OLC にも対応(IGC ファイルで出力可能)
・電源
→乾電池も搭載可能(予備バッテリーとしても機能)
→機体への配線及び電装が不要(施工すれば機体から給電も可能)
・障害物
→地上から 60m の障害物データを入れてアラームできる
・価格
→1,950 フラン(スイス)
→日本円: 35 万円
・民生品について
→グライダーは恐らく対応可能
→曳航機はどうすればよいか?(持ち込み品として扱う?)
・8割の確度で良いので需要を知りたい
→台数に多少ブレがあっても進めていく
→注文を受ければ 3か月後には発送可能

MTG 終了後

→夜はクリアビューゴルフ＆ホテル内にて懇親会を開催

以上